

<週報No. 2, 898> 3, 009 回例会

2019年10月4日(金)

■会長/玉本 広人 ■幹事/山田 文雄

◆司会=飯田兼光副SAA

◆ゲストビジター=すわ子ども文化ステーション

会長、チャイルドライン諏訪事務局長 宮澤節子様

## ◆出席報告

本日	53.33%	20名欠席
前回訂正	次回報告	—
前々回訂正	85.42%	7名欠席

◆ラッキーナンバー=No.18 平林明君

◆ニコニコボックス=●増沢洋太郎君=孫がイギリスの大学に入学するためイギリスへ行ってきました。●玉本広人君、山田文雄君、北川和彦君、飯田兼光君、伊藤武利君=宮澤様本日はよろしくお祈りします。●平林明君=ラッキーNoにあたって。

◆会長告知・玉本広人会長=先週はローターアクトとの合同夜間例会で懇親を深めました。ローターアクト会員は現在6名まで増えておりますが、積極的に活動できる状態ではないようです。新たな会員候補をご紹介いただくようご支援をお願いいたします。

さて10月は、「経済と地域社会の発展月間」です。

国連は、今世紀開発目標において、地域社会と経済を発展させるには、貧困問題の解消、女性の地位向上、グローバルなパートナーシップ、環境の持続可能性が必要であるとしています。また、2014年国連進捗レポートによると、極度の貧困者数が半減、労働市場における女性の地位が上昇、インターネット利用者約30億人、携帯電話利用者70億人とテクノロジーの使用が上昇しており、途上国の借金は安定した状態を保っています。

しかし、国連が新たに発表した「持続可能な開発目標」では、現在も世界に以下のような切迫したニーズがあると指摘されています。

- ・2013年の失業人口は約2億200万人であり、そのうち7450万人は15歳~24歳の若者だった。
- ・都市部以外に住む貧困者の70%の主な収入源と仕事は農業である。
- ・雇用における男女格差は根強く、2012年の就業率における男女差は24.8ポイントである。

「経済と地域社会の発展」はロータリー6つの重点分野の一つであり次のような活動が行われています。

アルバニアでは、養蜂のための巣箱125箱を貧困家庭に提供し、養蜂技術と販売スキルの研修を実施しました。その後、ミツバチの繁殖に伴い、新たに125箱を提供することができました。

ナイジェリアでは、配偶者を失った女性に小口融資を行い、ビジネスを成功させるための研修を実施しました。その他、家族を養わなければならない少女・女性を対象に、食品加工、服飾仕立て、コンピュータスキル、起業などの職業研修や、地元住民を対象とした資産管理、貯蓄、ローン、投資、保険、老後計画に関する研修、電気が使用できない遠隔地の家庭に、太陽光を利用した発電システムの提供など世界中で様々な活動がおこなわれています。

一方、日本でも最近貧困問題が取り上げられるようになりました。相対的貧困に悩まされている子どもの数が多く問題となっています。諏訪でも行政が児童クラブを開設し、民間でも子供の居場所を作ったり学習サポートや子ども食堂などを開設したりなどの支援が行われています。諏訪ロータリーでは、長年にわたり小中学校への図書寄贈を中心とした学校教育支援を行ってきました。それとは別に、当月間にあたり、今後にも近い貧困問題に対し諏訪ロータリーとして支援できることを考える時期に来ているのかもと思っています。

◆幹事報告・山田文雄幹事=①10月のロータリーレートは1ドル108円です。②10月27日地区大会の参加依頼。③日本ロータリー100周年記念バッチ、米山月間に伴う米山記念奨学会から届きました資料と豆辞典を配布しましたので活用下さい。④図書贈呈式が10月30日15:00~諏訪中学校に決まりました。詳細は事務局より通知しますのでご参加願います。尚、当日は小平さんの奥様が出演されます。⑤本日は「チャイルドラインから見える子どもたちの今」のテーマで子供文化ステーション会長の宮澤節子様より卓話を頂きます。⑥次回11日の例会は米山奨学会委員会の担当例会です。山崎委員長宜しくお願いします。⑦本日は例会終了後に第6回理事会を行いますので、対象者はお集まりください。

◆委員会報告・小口武男ガバナー補佐=①9月21日諏訪グループ新入会員セミナーの参加ありがとうございます

ました。②10月6日チャリティゴルフにあわせポリオ撲滅の新聞広告を出しました。



◆クラブフォーラム卓話・宮澤節子様＝今日は「チャイルドラインから見える子どもたちの今」ということで、子どもたちが今どのような状況なのか、私達大人は何をすべきかについてみなさまにお話しさせていただきます。

活動経緯ですが、私の子どもが4歳の時に、子ども劇場でプロの劇を観たり、お祭りやキャンプに親子で参加しながら地域で育っていくという事業に参加したのが始まりです。子ども劇場運営委員長の時には参加数が800人いましたがその後数年で半減していき、経済的にも大きな劇団が呼べなくなりました。このままですと趣味の会になってしまうと危機感を感じていた頃、全国の子どもセンターがNPO化する流れにありましたので、2003年、長野県では初のNPO「すわ子ども文化ステーション」に生まれ変わりました。

チャイルドラインにつきましては、子どものためのヘルプラインとして1998年に世田谷で実験的に実施されました。2日間開催し、いじめ問題など電話が鳴りっぱなしで、これは大変だということで、1999年に全国大のチャイルドライン支援センターが設立され、その後全国70団体に広がっていきました。長野県では行政の力を借りながら民間と一緒に2004年に長野県チャイルドラインながのを開設しました。「チャイルドラインすわ」の設立は長野県内では2番目です。

9月前後にキャンペーンを行うために、長野県のすべての子ども達に電話番号カードを配布しました。チャイルドラインは、子どもの権利を守る活動です。世界150か国が参加していますが、日本では、救済にすぐ走るのではなく子ども達に寄り添い話を聴くことを理念としています。子どもとの約束「ヒミツはまもる、名まえも言わなくていい、どんなことも、いっしょに考える、でんわやチャットを途中で切ってもいいんだよ」で何でも話しやすい環境を整えています。

活動状況は、2018年統計によりますと全国で発信数46万件、着信率は42.6%で、まだまだ回線数が足りません。また、ネット社会になりご家庭に電話もなくなる

現象も起こっています。子ども達の取り巻く環境や人間関係は14年前とかなり変化しています。電話の内容は、誰にも話してない内容、誰に話していいかわからないものが多いですが、話している中で、今の子ども達の人間関係や家庭関係などの生活環境が変化していることに気づき、私達も学んでいます。特に核家族化についてですが、設立当初は3歳児ぐらいまでは親と遊びながら育てている状況でしたが、最近は0歳児から母親が復職する状況となっています。集団行動を早くするという利点もありますが、子ども達の中でいろんな現象が起きていると思います。多分子ども達はこれが当たり前と思っていますが、3歳までにいろんな体験をしなければいけない中でとても心配に思います。今後大きくなり小学校・中学校になって症状が現れてくるのではないかと、自分の気持ちを伝えられないことが子どもの中でストレスになり問題になる、自殺もその一つではないかと思っています。家庭内虐待も増えていまして、電話がかけられない子どもも苦しんでいるかと思っています。チャイルドラインは子ども達の声を受けながら、子ども達がどうやったら元気に地域の中で自分らしく生きられるかを考え、活動をしています。末広に「みんなの居場所 ゆめひろ」という交流拠点をつくりました。これからも子どもからお年寄りまでが集まって生き姿を話したり応援したり、人が繋がる居場所をたくさん作って、子供が元気に育つ地域をつくっていきたく活動が続けてまいります。本日はこのような機会を得られたことを大変嬉しく思います。



◆今後の例会日程

10月11日	金	クラブフォーラム 米山月間
10月18日	金	準法定休日
10月25日	金	クラブフォーラム IMについて